

教員紹介



赤間 亮 教授

専門領域 日本の有形無形の文化財を対象にデジタルアーカイブの実践研究を進めています。とりわけ美術品や文化資源は、幕末から大量に輸出されることで、海外の博物館や個人が大量に所蔵しており、日本と海外の研究者との間で情報を共有する必要があります。また、能や歌舞伎、京舞などの伝統芸能を正しく理解する観客を育てていく手法開発も必要です。こうした状況を解決する方法としての新たなモデル構築に挑戦しています。

最近の研究テーマ 幕末期浮世絵揃物の研究、イメージデータベースと活用、歌舞伎の造形

大学院志望者へ一言 領域を越えた視点、国際的な視野からのハイブリッドな日本文化研究者が必要とされてきています。こうした学問状況のなかで、柔軟な研究姿勢を持ちながら自分自身の確たる柱を打ち立てていっていただきたい。



八村広三郎 教授

専門領域 元々の専門は工学で画像情報処理の分野ですが、大学院を出て最初の就職先が、国立民族学博物館であったことから、人文科学におけるマルチメディア技術の応用という分野に長くかかわっています。本学情理工学部に移ってからも、コンピュータグラフィックス、バーチャルリアリティ技術を人文系の研究に利用するという観点で研究しています。99年ごろから、モーションキャプチャを使った無形文化財のデジタルアーカイブの研究を開始し、最近はその延長として、祇園祭バーチャル山鉾巡行システムの研究をしています。

最近の研究テーマ 無形文化財のデジタル・アーカイブ、祇園祭のバーチャル山鉾巡行、仮想巡回体験、古典籍の画像解析、類似画像検索

大学院志望者へ一言 長い間、人文学の研究対象は紙に書かれた文書や記録、書物、絵画などが中心でした。最近ではこのような資料類、各種の文化財などが画像技術を使って精密にデジタル化され、ネット上で公開されて多くの研究者がこれを利用することができますようになりました。これがデジタル・ヒューマニティーズという考え方を生む原動力になっています。今から20年後の世の中を考えると、人文学の研究もデジタル技術を今以上に活用するものになっていることは間違ひありません。新しい人文学へ挑戦する人を求めています。

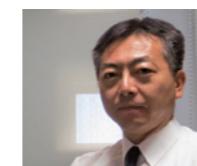


河角 龍典 教授

専門領域 平安京や平城京など古代都市遺跡の環境考古学とGIS（地理情報システム）を専門としています。遺跡の発掘調査が対象とする表層地質に記録されている情報から地形形成過程を把握し、また災害史を構築することに关心があります。また、デジタル人文学にも関心があり、GISとCGを用いながらバーチャル平安京や長岡京の3次元都市モデルを構築し、景観シミュレーションの研究も進めています。

最近の研究テーマ ハンディジョスライサーを用いた伊勢平野中部の海岸低地の形成過程や災害史の研究を進めています。

大学院志望者へ一言 自然地理学・歴史地理学・環境考古学・ジオアーケオロジーの方法を適用した遺跡の古環境復原、空間情報処理、ビジュアライゼーションに関する調査・研究をサポートします。



矢野 桂司 教授

専門領域 地理情報システムを活用した人文地理学と学際的な地理情報科学を専門としています。国勢調査などの小地域統計を用いたジオデモグラフィックスや、人や物の空間的相互作用などに関心があります。また、アート・リサーチセンターにおいて、デジタル・ヒューマニティーズ、とりわけ京都の歴史GIS研究を展開し、バーチャル京都を構築しています。京町家、祇園祭などの京都の文化財に関わる、産官学地域連携のもとでの地理学的研究を実践しています。

最近の研究テーマ ジオデモグラフィックス、歴史都市京都のGIS、バーチャル京都の利活用、京町家のGIS、祇園祭、地理学的研究など。自治体・教育分野へのGISの普及。

大学院志望者へ一言 地理情報システム(GIS)と地理情報科学(GISc)に関わる地理学的研究を、国内外で実践するには、最も適した大学院です。とりわけ、本大学院は、デジタル・ヒューマニティーズの視点からGISを用いた歴史都市京都を対象とする研究としては唯一の大学院です。



湯浅 俊彦 教授

専門領域 「デジタル環境下における出版ビジネスと図書館」が主な研究領域です。電子出版と電子図書館がどのような方向性を目指していくのか。読者・利用者のために出版界と図書館界の新たなモデルを構築することを探求しています。

最近の研究テーマ 国立国会図書館の所蔵資料の大規模デジタル化や「電子納本制度」の導入など、図書館界における出版コンテンツのデジタル化とその利活用を中心に研究を進めています。

大学院志望者へ一言 写本の時代に活版印刷が現れ、次第に活版印刷物が主流になったように、電子出版もまた、著作を伝達し、継承し、保存していくという観点からすれば新たな、そして大きな転換期をもたらすものです。したがって、この領域の研究には既存のメディアを相対化する柔軟な思考こそが求められます。



鈴木 桂子 教授

専門領域 専門の視覚文化研究は、視覚や視覚的過程の文化的構築に注目し、1990年代初めから急速に研究が進んできた学術分野です。視覚文化研究・文化人類学・表象論の観点から、国境を越える視覚文化・物質文化に注目し、それらに表現される異文化理解・異文化交流を研究しています。これにより、そういう文化の生産・消費に関わった様々な社会集団（ジェンダー・人種・民族性・階級などによる）とその文化を研究しています。

最近の研究テーマ ①浮世絵における他者の視覚的表象 ②20世紀における「きもの」文化の国際化というテーマで、国際観光芸術や輸出品としての「きもの」の研究をしています。

大学院志望者へ一言 文化を情報と考えると、それは地域に限定されず、また様々な学際的な研究の可能性が見えてきます。世界の中の日本文化の確固たる専門知識を学び、オリジナリティのある研究を柔軟にアウトプットする研究姿勢を身に付けましょう。

R 立命館大学 大学院
文学研究科 行動文化情報学専攻

文化情報学専修
入学生支援情報



様々な形態の文化を保存・理解・継承・活用、さらには新しい文化創生を実現



デジタル時代の今、歴史・文化・芸術を対象とした研究にもデジタル技術を導入した手法が急速な勢導入されてきています。これを文化情報学と称し、専修では様々な形態の文化を保存・理解・継承・活用、さらには新しい文化創生を実現するための研究をします。歴史都市や文化財・文化遺産、出版メディアなどを対象にしたデジタルアーカイブを文化資源（情報）と位置づけることで生まれる様々な可能性について、国境や時代という境界を越えた視点で研究を進めます。

専修では、国内外の著名な博物館や文化遺産保護組織へのインターンシップや、学内の歴史都市防災研究所やアート・リサーチセンターで実施されている研究プロジェクトに参加し、実践的な研究環境の中で問題意識を持ち、論文をまとめていくという新しいスタイルのカリキュラムを提供します。この分野の人材は、大学だけでなく、図書館、博物館、出版業界、自治体、国際文化団体などから広く求められています。

文化情報学専修は、本学衣笠キャンパスのアート・リサーチセンターの研究活動と深くかかわっています。アート・リサーチセンターは、「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」のベースとなっているほか、本年度、文部科学省共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」として認定を受けました。

専 情 報 化 學



専修専門科目の内容

国内外博物館・美術館でインターンシップ実施

文化情報学専修では、国内外の博物館・美術館等での学芸員等の仕事の内容を理解し、運営企画などを体験することができるインターンシップを専修科目として開設しています。インターンシップのプロジェクトの内容・進行については、事前に授業担当者、現場受入監督者、受講者3者の話し合いで決定し、評価は事前準備・インターンシップへの参加の程度・報告内容などを総合して行います。

プロジェクト演習I（国内インターンシップ）

京都の豊かな文化資源の防災保護・継承・活用の現場、または文化情報資源研究の現場において、実践的な研修をプロジェクトベースで行う。

今年度のインターンシップ受け入れ機関 予定

- 長江家住宅（京都市指定有形文化財）
- 京セラコミュニケーションシステム
- 京セラ丸善システムインテグレーション

プロジェクト演習II（海外インターンシップ）(L)

海外の文化資源の防災保護・継承・活用の現場、または文化情報資源研究の現場において、実践的な研修をプロジェクトベースで行う。

今年度のインターンシップ受け入れ機関 予定

- 英国・大英博物館アジア局日本部門
- ケンブリッジ大学図書館日本語コレクション部
- 米国・メトロポリタン美術館アジア美術部門日本美術セクション

募集課程・募集人数

博士課程前期課程 一般入学試験：14名
他試験方式：若干名

博士課程後期課程 一般入学試験：10名*
他試験方式：若干名
※ 行動文化情報学専攻で10名

試験日・出願期間

実施月	入試方式	出願期間	試験日	合格発表日	第1次手続期間	第2次手続期間
9月	一般、社会人、 外国人留学生 (日本在住・海外在住)、 APU、学内	8/1(金) ▼ 8/22(金)	9/20(土)	10/3(金)	10/3(金) ▼ 10/17(金)	2/27(金) ▼ 3/13(金)
2月	一般、社会人、 外国人留学生 (日本在住・海外在住)、 特別学内	1/9(金) ▼ 1/23(金)	2/14(土)	2/27(金)	—	

*専修課程の入試は、2月のみとなります。

※その他、大学院入試の詳細は本学の入試情報サイト「リツツネット大学院」(<http://www.ritsumei.ac.jp/gr/>)をご覧下さい。

奨学金・研究助成

入学試験に合格し、所定の手続きを経て入学した者は、次のPA・RA雇用、奨学金、研究支援制度に応募することができます。

[博士課程後期課程対象]

- ① 日本文化DH拠点 若手研究者助成金
拠点が若手の研究メンバーを対象に助成するもので、国内外での研究発表に係る費用、資料購入などの研究費を助成。
上限 10万円／年（2014年度、審査有）※年度により上限額が増減する場合があります。

- ② 日本文化DH拠点 若手研究者海外研究活動助成金

拠点が若手の研究メンバーを対象に助成するもので、海外での研究発表、中短期の調査などを行う者が対象。
旅費、日当、宿泊費などを助成。
上限 30万円／年（2014年度、審査有）※年度により上限額が増減する場合があります。

[博士課程前期課程・後期課程対象]

- ① 文部科学省共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」プロジェクトアシスタント（PA、前期課程）・リサーチアシスタント（RA、後期課程）雇用
- ② その他の学内外制度による奨学金・研究助成
※学内外制度の詳細は「大学院キャリアパス推進室」(http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/fellow/)をご覧下さい。